

正角材落としこみ壁構法による休憩施設の試作

1 研究のねらい

これまでに住宅建築用の耐力壁材に地域材を大量に利用する落とし込み壁構法を開発してきたが、今回その開発した構法（スギ製材品を積み上げた壁を通し材により緊結し、さらに壁材を、柱に留めつけた受け材にである材に落とし込む壁構法）により休憩施設を試作する。

2 試験体と研究方法

間伐材利用休憩施設（東屋）の建築規模を床面積 9.93m³（2.73m×3.64m）とした。軸組み部材の土台、柱材にはスギ 105×105mm、梁材にはアカマツ 105×180mm の製材品を使用した。木材の使用量は 4.351 m³ である。

壁体の製作方法は、スギの壁部材間にクリ 58×30mm の通し材（込み栓）を1列通して一体化し、壁材の両端を凹型に実決（さねじゃく）り加工後、柱材に木ネジ（90mm）で留めつけた 58×30mm の受け材に壁材を落とし込んで板壁とした。柱と土台、柱と梁には金具を用いて緊結した。

3 結果の概要

- (1) 加工済み部材を準備した後において、センター職員3名のみの組み立て作業により東屋は2日間で完成した。地域の技術を活用しての間伐材利用方法として普及性は高いものと考えられた。
- (2) 本工法は、スギ材をそのまま壁の仕上げ面とするため、従来の工法に比較して、木質感に溢れた壁材に仕上がっており、工程的にはシンプルな壁体を構成することができる特徴がある。

4 成果と今後の進め方

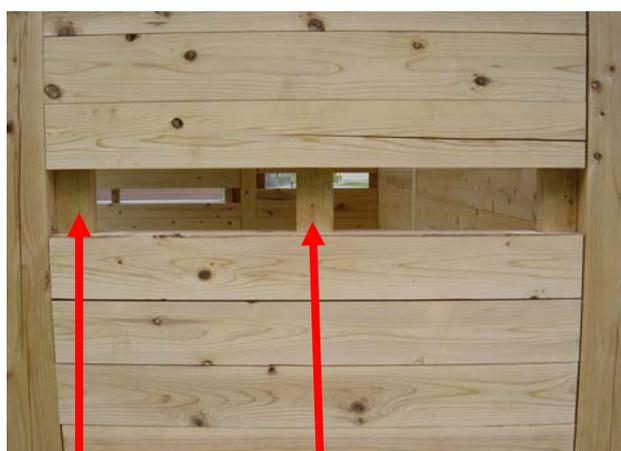
本構法は、特殊な加工機械を必要とせず容易に部材の加工が可能である。施工においても、センター職員のみでの組み立て作業により2日間で完成したことからわかるように、極めて簡易な構法である。このためキット化して普及することも可能と考えられる。産直品販売施設が、実際に山形村戸呂町に建設された実績があり、今後、バス停、ゴミ集積所、産直販売施設、バンガローなどの農林水産業用施設等の木材利用施設の簡易な建物への普及が期待できる。



林業技術センター所内に設置した間伐材利用休憩施設（東屋）



スギ正角材の壁材を落とし込む作業



受け材

通し材

(担当 林産利用部長 東野 正)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割 560 番地 11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>